

鳴立庵だより

鳴立庵とは、江戸時代から続く俳諧道場
でござる。
初代庵主大淀三千風が開き、現在では京
都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び日本三大
俳諧道場と呼ばれているでござるよ。



鳴立庵大使「えんいくん」
※俗名は佐藤義清(のりきよ)。
出家して法号は円位、後に西行。



▲鳴立庵外観

◆今月の俳句1◆

温度計 見上げる冬の化学室

武蔵野大学附属千代田高等学校 永井 蒼太郎

(評) 季題は「冬」。「冬の化学室」がど
んなところか定かではありませんが、
どこかの学校の「化学実験室」を想
像すると、ガランとして寒々しい空
気の漂う中に、そこはかとなく試薬
の匂いが漂っているような空間が脳
裏に浮かびます。色白でキリツとし
た、厳しい「化学の先生」の存在も
空想出来ず、生徒も全員白衣を
着ていることから、部屋全体に漲る
緊張感はなかなかのもの。実験の結
果に影響するのでしょうか、ときど
き「室温」をチェックしている生徒
もいるようです。なるほど「音楽室」
や「調理実習室」とは違いますね。

(鳴立庵庵主 本井 英)

◆今月の俳句2◆

凍蝶を解かず観光客の声

愛知県立幸田高等学校 難波 晴菜

(評) 季題は「凍蝶」。「冬の蝶」のこと
です。冬の蝶はじっとして幾日も羽
ばたきもしないで、止まっている
ことがあります。死んでいるのか
と思って触れてみると、突然、ほろ
ほろと舞い上がって飛び去ったり、
一方、生きているとばかり思って触
れてみると、凍って死んでいたりと
することもあります。一句はどこかの
観光地の一角で「観光客」の誰かが
「凍蝶」を見つけて、指で触れてみ
ると「蝶」はフラフラと浮かびあがっ
た。その時の「観光客」達の「ワァー」
という声、まるで「蝶」を「解か
す」ようだったというのです。

(鳴立庵庵主 本井 英)

◇今月の短歌◇

隣から 聞こえる君の テノールが

支えてくれる 私のアルト

茨城県立下館第一高等学校 谷口 真奈美

(評) 「君」と「私」は合唱部(団)に
所属しています。音域の低い方から
すると、男声はバスにテノール、女
声はアルトにソプラノという編成が
一般的で、テノールとアルトは隣り
合ったパートになります。女性には
アルトの低い音域は声が出にくい。
そこを男声のテノールが補うので
しょう。ただ、この歌では、「君の
テノール」が「私のアルト」を支え
てくれていると歌っています。つま
り、「私」は「君」の声を識別して
いる、誇張して言えば「君」の声し
か聞こえない。内に秘めた恋心は紛
れもありません。若々しく、さわや
かな青春歌です。

(西行祭選者 柳 宣宏)

講座の申込み・問合せ 鳴立庵 ☎(61)6926

定員 費用

講座名	日程	時間	備考
連句勉強会	9月4日(日)	10:00~正午	連句づくりを楽しもう! 4期生募集中 講師: 本井 英氏(鳴立庵庵主) 定15人 費2,000円(入庵料込)
座 禅	9月17日(土)	13:30~14:30	姿勢・呼吸・心を整えます 講師: 豊田 素道氏(慶林寺住職) 定10人 費500円(入庵料込)
伝 筆	9月25日(日)	10:30~正午	温かみのある文字が書けるようになる筆文字教室 講師: 認定講師 わでん伝筆マスター 宮前 礼子氏 対象: 中学生以上 定10人 費3,850円(材料費込)
茶と遊ぶ	10月1日(土)	10:00~正午	急須の魅力再発見! ~常滑焼急須でいろいろなお茶を楽しもう~ 講師: 高野 幸代氏 定10人 費2,000円(お茶菓子付き・入庵料込)